

事例に学ぶ議会事務局向けDXセミナー

生成AI で変わる議会事務局



主催 一般社団法人Maniken

協力 早稲田大学デモクラシー創造研究所
NTTアドバンステクノロジー株式会社

開催日時

3/18水
15:30~17:00
zoom開催/無料

対象 議会事務局職員

申込先 早稲田大学デモクラシー創造研究所HP
<https://waseda-idi.jp/archives/5675>
※3月17日(火)までにお申込ください。

連絡先 03-5324-2718 / mani@maniken.jp
事務局:(一社)Maniken 担当 山内・中村

お申し込みはWEBから



近年、生成AIが急速に普及する中、執行部においては本格的な活用が見られるようになってきました。当研究所でも議員向けの勉強会を多数開催しており、議員の間でも生成AIへの関心が高まっていることを実感しています。今後は、議会全体として生成AI活用を進めていく必要があり、その際に要となるのが議会事務局です。デジタルに不慣れな議員も少なくない中で、生成AIの使い方や運用ルールの整理、議会事務の効率化など、議会事務局が果たすべき役割は大きいと考えています。このセミナーは、議会事務局職員を対象に、議会における生成AI等のデジタル活用について、先行事例や民間から学び、考える場として開催します。

||||| 島根県浜田市議会 |||||

事例

「まずはやってみる」で進める 生成AI活用と議会運営改革(仮)

浜田市議会では、委員会等の会議録(要点筆記)作成業務に生成AIを導入し、音声認識とAIチャットサービスを組み合わせた独自のフローを構築している。従来は録音を聞きながら職員が手作業で作成していた議事録を、AIで一次整理・整形し、最終的に職員が確認する仕組みに転換したことで、作成時間は大幅に短縮された。

さらに、LINE WORKSによる迅速な情報共有やオンライン会議の導入といったデジタル活用も着実に進めている。その根底にあるのは、議会の透明性向上と機能強化を目指す姿勢、そして「まずはやってみよう」というマインドである。本セッションでは、これらの改革を支える議会事務局の取り組みから、生成AI時代の議会運営を考えていく。

||||| 東京都墨田区議会 |||||

事例

生成AI導入による 提言作成プロセス等の効率化(仮)

墨田区議会では、特別委員会における執行機関への提言書作成プロセスの中で、ChatGPTなどの生成AIを活用して、各会派から出された意見を集約し、提言書のたたき台を作成している。これまで時間がかかっていた意見の集約で業務負担の軽減につながっている。

墨田区議会は、事務局提案制度を議会基本条例に位置付けたり、OODAループ(Observe(観察)、Orient(状況判断)、Decide(意思決定)、Act(実行))をループさせること(の考え方を特別委員会の運営に取り入れれたりするなど、先進的な実践を重ねている。AI活用・DXを一つの切り口に、「チーム墨田区議会」を支える実践マインドとともに学んでいく。

||||| 株式会社会議録研究所 |||||

解説

生成AI時代の会議録作成と 利活用の最前線(仮)

会議録作成の専門企業である株式会社会議録研究所が、生成AIをはじめとするデジタル技術を活用した会議録作成・利活用の最新動向と実務ノウハウについて講演。

約40年以上にわたり全国の地方議会を支援してきた実績をもとに、AI時代における会議録作成・活用について、最新のデジタルツールとともに解説する。

||||| 早稲田大学デモクラシー創造研究所 |||||

解説

生成AI活用の現在地点と展望(仮)

タブレット・PCの持ち込みが約7割の議会で認められるようになり、環境整備は着実に進んでいる。しかしデジタルの現状の活用は、ペーパーレス化にとどまり、紙がデジタルに置き換わっただけで終わっている例も少なくない。では、生成AIは議会事務局の業務と議会運営をどこまで変え得るのか。早稲田大学デモクラシー創造研究所が全国の議会事務局からの協力を得て実施している「地域経営のための議会改革度調査」の最新結果をもとに、地方議会における生成AI活用の現在地点を整理し、DXとして議会の議論の質を高め、住民参画の仕組みそのものに変化を起こすにはどうしたら良いか、参加者の皆さんと考えていく。